

コダマが自社施設で証明

CAD／CAMは経営に効く

コダマコーポレーション(横浜市都筑区、小玉博幸社長)は11月13日、東京都羽村市で「経営者様のための5軸・複合加工セミナー」を開いた。CAD／CAMソフトウェア「TopSolid(トップソリッド)」を使った、設計から製造までの効率向上を訴えた。小玉社長は「会社の仕組みを変えられれば、日本の中小加工メーカーはまだまだ利益を上げられる」と話す。

一貫ソフトの手軽さを訴求

「適切なCAD／CAMソフトを使い、社内の業務の流れを見直せば、経営を効率化できる。試作・加工研究部門を10年以上運営した経験から、自信を持って言える」――。フランスにあるトップソリッドの3次元CAD／CAMソフト「トップソリッドシリーズ」を扱うコダマコーポレーションの小玉博幸社長は、セミナーで力説する。

トップソリッドの特徴は、設計から製造までの各データを一貫して扱えること。設計変更や修正で3次元CADデータを修正すると、その修正が2次元で出力する設計図面やCAMデータ、加工シミュレーションデータまで最適に反映される。前後の工程を行き来して

修正する手間がかからない。

そのCAMデータを同時5軸マシニングセンタ(MC)や複合加工機に読み込ませて加工すれば、機械のNCを直接操作せずに加工できる。機械ごとに工程を組み、自動パレット交換装置(APC)も駆使すれば、機械の24時間稼働も難しくない。小玉社長はそのような理想を掲げる。だが、日本の中小企業の加工現場では、NC装置にプログラムを直接打ち込む姿がまだまだ多い。

09年から加工ノウハウ蓄積

この理想を自社で体現したのが、2009年に開所した試作部・加工技術研究所(東京都羽村市)だ。セミナー後に参加者に公開する。研究所では、自動車や一般



「CAD／CAMソフトは経営ツール」と力説する小玉博幸社長

機械メーカーなどから依頼を受けた開発段階の試作品などを加工する。同時5軸MCや複合加工機を計14台保有するが、現場専任の従業員は1人もいない。

顧客から試作依頼を受けると、CAD／CAMのエンジニアが、案件ごとに一人で全工程を担当する。設計図の検証から専用ジグの設計、加工パスの算出、シミュレーション、APCへのワーク供給、加工後の測定までを担う。現在は20人のエンジニアで、機械をほぼ24時間稼働させている。「多品種少量生産でも最低限の人数で運営できると、研究所は証明する」(小玉社長)

社内体制の変革は、トップダウンの方が進めやすい。そこで、14年から経営者向けのCAD／CAMセミナーを毎月開く。新型コロナウイルスの感染拡大で一時は中断したが、10月から再開した。「コロナ禍で効率的な経営により注目が集まっている。今後も訴えを続けたい」と小玉社長は意気込む。

(西塚将喜)



セミナー後に「試作部・加工技術研究所」を加工プログラムを作成するエンジニア見学する

